

平成 29 年 12 月 8 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY  
代表理事 枝松直樹

### NGO相談員による出張サービス実施企画について

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

#### 記

1. 企画名:平成29年度国際理解講座
2. 【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
3. 出張者氏名:阿部真理子
4. 依頼元／主催等団体名:会津若松市国際交流協会
5. 実施日時:平成 29 年 11 月 12 日(日) 14 時 00 分～16 時 00 分
6. 実施場所:会津若松市生涯学習総合センター(福島県会津若松市栄町3-50)
7. 企画の概要  
参加者:協会会員、学生、一般市民20人  
福島県会津若松市国際交流協会では、会員および一般市民を対象に、地域から地球上の人々の現状や課題などを見つめ共有し、理解と認識を深めることを目的として、国際理解講座を開催している。  
その一環として「世界中の誰に取っても豊かな社会とはどんな社会なのか？」をSDGsの視点で考えるワークショップを、今般一般市民向けに実施することになり、弊団体に依頼があったもの。  
最初に、イラクにおける難民への越冬支援や教育支援(N連・JPF事業)、1993年から行っているカンボジアにおける農業支援(元JICA草の根・N連事業)を紹介することにより、ODAや日本の国際協力活動について説明し理解の促進を図った。  
ワークショップでは、
  - 1) 日本、海外の写真を4つの視点(経済、社会、環境、参加)で見るフォトランゲージ
  - 2) 「豊かさ」とは何か?それぞれが考える「豊かさ」は同じなのか?を考え、立場や年齢、地域によって「豊かさ」の視点が違ってくることをグループワークで確認
  - 3) 世界中の誰に取っても豊かな社会とはどんな社会なのか?について話し合いを行なった。終了後、若手の参加者から国際協力活動への参加について、相談があり対応を行なった。
8. その他  
参加者アンケートより  
<豊かな社会とはどんな社会だと思ったか?という質問に対して>

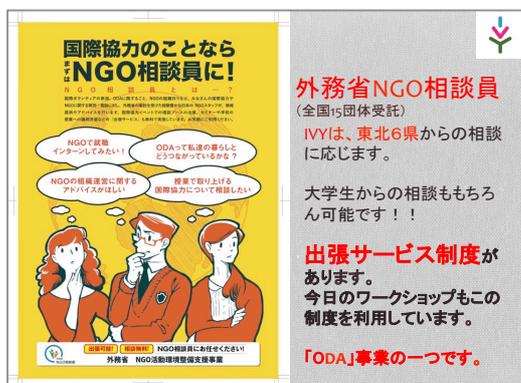
- ・ 格差や貧困のない社会
- ・ 性別、人種、考え方、行動、生活様式の違いによって差別されることのない社会
- ・ 誰でも教育を受けることの出来る社会
- ・ 国籍に関係なく人々が尊重される社会

＜今日の講座を受けての感想＞

- ・ 豊かさを考えるにあたって、年齢間で大きな差が生まれることに驚きました。日本国内でもこんなに差があるのに、他国とだったらどんなことになるのか気になりました。
- ・ NGO が世界に向けて活躍していることを知り感心しました。自分としては、社会に向けてどのような貢献が出来るのかを考えさせられました。

誰一人取り残さないという SDGs の目標に対して、一人一人がどのように向き合っていくのかを考えるため、開発教育協会発行の「豊かさと開発」を利用しワークショップを行なった。25枚ある豊かさのカードを最後は3枚まで絞っていくが、最後に選んだカードが、個人個人それぞれ違っていたことに対する驚きがあちこちで広がった。

以上



当日配布した資料



写真の説明



豊かさのカード選び  
最初は個人で



豊かさのカード  
グループで3枚に

平成 29 年 12 月 8 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY  
代表理事 枝松直樹

### NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告致します。

#### 記

1. 企画名:国際理解実践フォーラム 2017  
【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
2. 出張者氏名:安達三千代
3. 依頼元/主催等団体名:(公財)山形県国際交流協会、独立行政法人国際協力機構東北支部、認定 NPO 法人 IVY
4. 実施予定日時:平成 29 年 11 月 18 日(土) 13 時 30 分~16 時 30 分
5. 実施場所:山形市霞城セントラル 山形県国際交流センター研修室
6. 実施内容:

毎年11月に開催される国際理解実践フォーラムは、国際協力、多文化共生、国際理解教育など、様々な分野をテーマとした6つの分科会を、国際関係に関心のある市民、教員、学生等を対象に行っている。弊団体の阿部がこのフォーラムの実行委員を毎年務めており、実行委員会で「難民を知るワークショップ」との要望が上がったので、第5分科会で開催することとなった。

また、NHK山形が弊団体のイラクでの支援事業を取材したいということで、このワークショップの撮影も行われた。

この日の参加者は 32 人、ボランティア 2 人、NHK クルー 3 人だった。

ワークショップは、以下の流れに沿って進められた。

- ・シリア紛争とは - ポイント6つ
- ・難民とはだれのこと? 難民の定義
- ・6 枚の写真-もしあなたがシリア人だったら、いつ避難しますか。
- ・難民登録申請書を書いてみる
- ・難民キャンプはこんなところ
- ・キャンプに残りますか、外に出ますか。
- ・国際社会、日本からのさまざまなシリア難民支援

ワークショップの最中にも終了後にも参加者から多数の質問が寄せられた。

## 7. 所感

- ・広報効果で当日飛び入りの方も多く、高校生から退職者まで、県内はもとより宮城県からの参加もあるなどして、30人を超える参加者となった。NHKの撮影隊が入ったりしたこともあったので、会場はいつもよりさらに熱気があった。
- ・多様な参加者だったので、シリア人一家になって、イラクに避難するという設定も受け入れられやすく、逃げるメンバーを選ばなくてはならない場面では「身につまされる」との声も聞かれた。体験に勝るものはないと思った。

### <参加者アンケートから>

- ・家族で誰が先に避難して、誰を残そうか、真剣に考えました。こんなに難民を身近に感じられた体験は初めてでした。
- ・グループワークがとても楽しかった。
- ・学校でも難民について考える授業があったけど、それ以上にわかりやすく、いろいろなことを知ることができました。
- ・難民登録があることにびっくりしました。
- ・自分が難民になったつもりで考えて、見えてくるものがたくさんありました。



時系列でシリアで起こった出来事を並べるグループワーク。多様な人たちが参加し関心の高さをうかがわせた。左が進行役のNGO相談員



NHK 山形のクルー3人も最後まで参加。この模様は12/1から特集番組「3.11から生まれた難民支援」として東北6県で放送されている。

以上

2017年12月8日

## NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「文教大学への講師派遣」

開催日時： 2017年11月6日（月）13時20分～14時50分

主催者： 文教大学（担当教員： 渡邊暁子）

場 所： 文教大学（神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100）

出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 穂積武寛

参加者数： 約 60 名（大学 1～2 年生、一般聴講者数名）

### 実施内容：

本件は、文教大学で開講されている「紛争と国際協力」という授業の一環であったが、今回の講演は公開授業とされ、登録者以外の学生や地域の一般市民に対しても事前に周知が行われていた。

講義は『難民の時代と国際人』と題し、まず難民問題理解の基本事項として、難民条約上の「難民」の定義を踏まえ、難民・国内避難民・庇護希望者の違いを説明し、UNHCR が発表しており各種メディアでも頻繁に引用される「6,500 万人」の正確な意味を解説した。

続いて、AAR が事業を行っている事象のうち、シリア難民と南スーダン難民を取り上げ、それぞれの特徴と AAR の支援事業の違いについて説明した。主な違いとして、①シリア難民は都市型難民問題であり、難民の大半が都市部に散らばっているのに対し、南スーダン難民の大半は難民キャンプまたは難民居住区に集中している、②シリア難民には高い教育レベルや経済力がある人も含まれ、生活の様子も多様であるのに対し、南スーダン難民は粗末なキャンプ生活を強いられている人々が多い、などの点を挙げた。

後半では、日本の難民受け入れについて、1970 年代のインドシナ難民受け入れ以降、欧米諸国に比べると少ないものの国際法に基づく受け入れはしてきていることや、難民認定を受けた後も国内で様々な支援ニーズがあるため、NGO などが活動していることを紹介した。

最後に、こうした難民への対応は日本も含め多くの国々において、文化的背景の違う人々を社会へ受け入れていくことを要求しており、異文化や多様な価値観との

対等な交流を要求される「国際人」としての感覚が、国内においても求められる時代になりつつあることを強調した。

所感：

難民は、日本社会では目に付く存在ではないことに加え、欧米諸国に比べれば日本での受け入れを希望する難民は相対的に少ないために、海外経験の少ない学生や一般市民に問題の深刻さを理解してもらい、「自分事」として共感を持ってもらうのは容易ではない。

今回も、聴講者側には難民問題がいかに大きいかはある程度理解してもらえたと考えるが、あまりに大きすぎ、自分の日常生活とかけ離れているがゆえに、具体的にどうしたらよいかについては戸惑いを隠せない様子が見られた。

今後、AAR の海外での事業紹介と合わせて、姉妹団体（社会福祉法人さぼうと21）による国内での難民支援も紹介し、支援を必要とする人々が増え続ける世界で、日本は市民レベルでどんな役割を果たすべきかを問うていきたい。



講演の様子

2017年11月29日

## NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名 : 横浜市立大学国際総合科学部講義への講師派遣  
開催日時 : 2017年11月28日(火) 12時50分～14時20分  
主催者 : 横浜市立大学(担当教員: 国際総合科学部 中川寛章)  
場所 : 横浜市立大学金沢八景キャンパス(神奈川県横浜市金沢区瀬戸2-2-2)  
出張者 : (正・副・その他) 特定非営利活動法人難民を助ける会 藤本矩大  
参加者数 : 15名

### 実施内容 :

横浜市立大学にて国際協力論を履修している学部生を対象に、当会が実施している活動を例に、NGOの強み、弱み、他国のNGOとの連携、活動の様子などについて講義を行った。また冒頭で、出張者がNGOに勤務することとなった背景や、そのきっかけなどについても簡単に説明した。

講義では、国際機関や各国政府など大規模な組織に比し、NGOの強みとして、意思決定の早さ、災害発生時に迅速に対応できるなどの機動性、大規模で定型的な支援が実施される際に取り残されがちな人々に支援を届けられる柔軟性などを取り上げた。一方、組織体制の脆弱さや、資金規模が限られることによる支援の限界といった課題を、NGOが持つ弱みの例として説明した。

他国NGOとの連携の例としては、当会で実績があったため、2015年に発生したネパール地震緊急支援に際し行った、アメリカのNGOとの協働事例を紹介した。さらに、当会では知見がある現地NGOと協働で事業を実施することが多いことも挙げ、そのような手法を取る理由として、現地の文化的背景を深く理解し、ニーズを的確に把握し、適切な支援を届けるためであることを説明した。

講義後半では、出張者が長期に亘って従事した南スーダン関連の事業について紹介した。長期に亘る内戦を経て国が独立を果たしたものの、再度内戦状態に陥った一連のプロセスや、その間当会が実施していた、また現在も周辺国で実施している事業について紹介した。NGOの特徴を踏まえた上で具体的なNGOの活動を知ってもらう、NGOの支援活動の実際の様子について理解を深められるよう促した。

所感：

質疑応答の時間には、学生から現地で活動する際に起こる問題や、それをどのように解決していくのかといった質問が挙がった。また、講義中に質問したところ、15名中3名が将来的に国際協力を仕事とすることを具体的に検討していると回答したこともあり、学生の国際協力に対する関心の高さが窺えた。昨今、国際情勢に関心を持つ学生が増えている印象がある。NGOとして現場で活動するだけでなく、機会をとらえてNGOや国際協力の意義、活動内容などを伝えていき、関心を育て、将来国際協力を担う人材育成に寄与していく重要性を再認識した。

また担当教員からは、NGO相談員の出張サービス制度は非常に有用であり、より広く知られるようになると良いといったコメントがあった。

#### 講義の様子



## 第 8 回フェアトレードまつり における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

**実施団体：**開発教育協会／DEAR

**日時：**2017年11月12日（日）10：00～15：30

**場所：**オリオンスクエア（〒320-0802 栃木県宇都宮市江野町 8-3）

**事業名：**第 8 回フェアトレードまつり

**主催団体：**まちなか・せかいネットーとちぎ海外協力 NGO センター

**実施内容：**相談対応（相談ブース出展）

フェアトレードまつりにおいて、フェアトレードや国際協力、開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。開発教育や国際理解教育、教材や資料等に関心のある宇都宮を中心とした住民や学生等からの相談や照会を受けつけた。

### 所感および効果：

宇都宮の市民団体や学生団体によるフェアトレード商品の販売や、サモサ・コーヒーなどの食品販売が多く出店していた。隣接するステージでは、フラダンス、アフリカの太鼓などの演奏と民族衣装ファッションショーも行われていた。

天候が非常に良かったこともあり、来場者数は多かった。客層は 10～70 代と幅広く、近隣の住民の方やフェアトレードに興味がある方が立ち寄られ、フェアトレードをキーワードとしながら国際協力や NGO について少しでも関心をもってもらうことができた良い機会となった。

ブースに立ち寄った地元の大学生や、留学生、教員らに当会の開発教育教材を使用したクイズや、団体の紹介を行った。地元の小学生向けに国際理解教育推進のワークショップをしている団体の担当者からは、参加型学習を通じた国際理解教育の相談があった。また中学校の地理でフェアトレードの単元をどう扱うか悩んでいる教員が立ち寄ったので、当協会の教材を例に相談対応した。



## 第 8 回フェアトレードまつり における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

**実施団体**：開発教育協会／DEAR

**日時**：2017 年 11 月 19 日（日）10：00～16：00

**場所**：蓮馨寺（〒350-0066 埼玉県川越市連雀町 7-1）

**事業名**：かわごえ国際交流フェスタ 2017

**主催団体**：かわごえ国際ボランティアの会

**実施内容**：相談対応（相談ブース出展）

かわごえ国際交流フェスタ 2017 において、国際協力、開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。開発教育や国際理解教育、教材や資料等に関心のある宇都宮を中心とした住民や学生等からの相談や照会を受けた。

### 所感および効果：

当日は東京国際大学、大東文化大学の学生などを含め、川越市の市民団体による民芸品や雑貨の販売や、市民団体、国際協力団体の活動展示、外国籍市民によるエスニック料理の販売などの出店があった。ステージでは、外国籍市民などによる民族音楽の演奏やダンスなどが行われ、とても賑やかであった。川越市民などを中心に 1000 人以上の来場者があった。

来場者は 10～70 代と幅広く、毎年の常連客から、外国人も含めた観光客まで様々な人がいた。ブースに立ち寄った地元の大学生や、留学生、教員、会社員らに国際協力や開発教育について説明をすることができた。大学生からは NGO へのインターンの希望があり、関連団体に紹介し、実際にインターンが決まったという報告も 1 件受けている。相談の多くは、NGO へのボランティアや就職に関するものが多く、また、フェアトレードについて関心がある人が多い印象を受けた。また、ブースに立ち寄った方々には、NGO 相談員という制度そのものについても広く告知することができた。



## 「エデュコレ～多様な教育の博覧会～」における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

**実施団体：**開発教育協会／DEAR

**日時：**2017年11月26日（日）10：00～18：00

**場所：**東洋大学白山キャンパス（〒113-0001 東京都文京区白山5丁目28-20）

**事業名：**「エデュコレ～多様な教育の博覧会～」

**主催団体：**一般社団法人 コアプラス

**実施内容：**相談対応（相談ブース出展・ロールモデルトークへの参加）

「エデュコレ～多様な教育の博覧会～」において、国際協力につながる開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。教材や資料等に関心のある教員を中心とした参加者からの相談や、インターナショナルスクール、フリースクール・オルタナティブスクール、教育事業を行う企業やNPO等からの相談や照会を受け付けた。

### 所感および効果：

「エデュコレ～多様な教育の博覧会～」は、多様な教育の形や、教育観を構築する機会として開催されており、学校やフリースクール、NPO、インターナショナルスクール、行政関係などが参加し、約50団体のブース出展があった。参加者はそれぞれの教育観を持ち、大変熱心な方々ばかりであった。「開発教育、国際理解教育に関する題材を学校で取り入れたいがどのようにしたらよいか」といった相談や、「教材をどのように使用したらよいか」等の照会があった。

ロールモデルトークは、登壇者対少人数の参加者が直接話すもので、よりゆっくり相談対応をすることができた。トークセッションを通じて、「社会や世界につながる教育を実施したいが、一から自分では準備をできない。このような教材を利用することで、より良い実践ができそうだ」という意見もあった。開発教育や国際理解教育への関心が高い層が多く、また、学校をはじめとする実践者に浸透していくことで、国際協力の国内での裾野の拡大につながると感じた。参加者は全国から400名の参加者があり、NGO相談員の制度についても広く伝えることができた。



平成 29 年 12 月 9 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン  
代表理事 田口 京子

NGO相談員出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

記

1. 企画名：「国際交流フェスティバル 2017 in TOYAMA」における相談対応サービス  
および石川県への NGO 相談員アウトリーチ活動
2. 実施者：特定非営利活動法人アイキャン 吉田文
3. 日時：A：国際交流フェスティバル 2017 in TOYAMA  
平成 29 年 11 月 12 日(日)10 時 30 分～16 時 30 分  
B：JICA 北陸  
平成 29 年 11 月 13 日(月)10 時 00 分～11 時 00 分
4. 場所：A：富山駅南 CiC ビル（富山県富山市新富町 1-2-3）  
B：JICA 北陸（石川県金沢市本町 1-5-2 リファール 4 階）
5. 相談対応件数・参加者：  
A：12 件  
B：JICA 北陸(3 名)
6. 実施内容：  
A：富山駅を会場として開催された国際協力イベントにおいて、JICA 北陸との共同  
ブースにて来場者や他出展団体への相談対応業務を行った。  
B：JICA 北陸において NGO 相談員制度の概要や活用方法、主な相談対応の内容、相  
談事例を紹介するとともに、地域が抱える課題を聞き取り、今後の連携方法  
についての意見交換を行った。また JICA 北陸訪問後は金沢国際交流財団、石  
川県国際交流協会を訪問し、相談員制度の活用方法や今後の連携の可能性に  
ついて話し合った。
6. 所感及び効果等：  
A：イベント内で相談員のチラシを来場者や各ブースをまわって配布しつつ、ブー

スでの相談対応を行った。来場者からの主な相談内容は NGO 職員の待遇について、海外で働く上での苦勞ややりがい、人材募集情報の見つけ方等の就職相談であった。また、当イベントの出展団体のほとんどは任意団体であり、どこも資金繰りには苦勞をしており、安定的な運営のための質問が目立った。助成金情報や他団体の資金調達方法をご案内することにより、今後の組織の基盤強化に貢献できたという所存である。

B: JICA 北陸の新担当者のほか、金沢国際交流財団や石川県国際交流協会の担当者にも NGO 相談員制度についての理解を得ることができた。北陸の課題としては、国際協力や NGO 活動がまだ浸透しておらず、例えば愛知県では定員を超えるイベントや研修への参加募集も、定員割れを起こす現状があった。しかし国際協力に関心を持つ層が潜在的にはいるため、その層にアプローチするとともに、無関心層を関心層に変えていくアプローチも必要である。この状況に対し、今回は石川県の国際協力イベントへ NGO 相談員として出展し、幅広い相談に対応したり、一般市民への情報提供を行うことで寄与できた。また、JICA 北陸からは JICA 主催のセミナーに NGO 相談員として参加してはどうか、とご提案もいただいたき今後の連携促進となる成果を得ることができた。今回の訪問先との連携を強化しつつ、潜在的な層や無関心層にアプローチするため、今後は訪問先以外の教育機関等へも積極的な働きかけを行っていきたい。

## 7. 写真



富山イベントでの出張相談ブース



JICA 北陸での協議

以上

2017 年 12 月 10 日

## 外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

大豊 盛重

### <概要>

企画名：第5回 清水寺で世界を語る

イベントの種類：相談対応サービス

実施日時：平成29年11月4日(土) 11時00分～16時00分

出張者氏名：大豊 盛重

主催団体名：清水寺で世界を語る実行委員会

場 所：清水寺

〒605-0862 京都府京都市東山区清水1丁目294

### <実施内容>

「第5回 清水寺で世界を語る」は、京都の国際協力NGO、中学高校、バレエ団により企画され、国際協力への思いと活動を清水寺から発信する取り組みとして開催された。第4回目となる今回は一平等な世界のために一緒に行動しようをテーマに、それぞれの団体がバレエ公演、柔道、フェアトレード商品販売、活動紹介などを行った。当日は清水寺を訪れた国内外の観光客や地元京都の市民などが来場した。

弊会は、NGO相談員コーナーを設置し、国際協力やNGO全般に関する相談を受け付けた。観光客や地元京都の主婦、大学生、団体関係者など幅広い来場者計11名がNGO相談員コーナーを利用した。

### <集客人数または相談対応件数>

11名

### <所感及び効果等>

国際協力に関心の高い学生や主婦、NGO関係者が、NGO相談員コーナーを利用した。学生の相談はキャリア形成やインターンシップに関することが多く、国際協力業界での就職を目指す学生が多いことが伺えた。国際協力の様々なアクターと役割の違いを紹介し、就職のためのアドバイスをを行った。

また、主婦や社会人からは身近な国際協力に関する相談が寄せられた。フェアトレードの商品購入やイベント参加など、手軽に出来る活動を紹介し、相談者の国際協力活動への

参加促進に努めた。特に高校生による SDGs の発表講演などもあり、SDGs 関連の質問や難民問題の質問も多かった。

<活動風景 (写真記録) >



相談対応の様子



イベントの様子 (清水寺経堂)

2017 年 12 月 10 日

## 外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

福島 美樹

### <概要>

企画名：なんとにあんキッズカーニバルにおける NGO 相談員ブース出展

イベント種類：相談対応サービス

実施日時：平成 29 年 11 月 19 日 (日) 11:00~16:00

出張者氏名：福島 美樹

主催団体名：南丹市国際交流協会

場所：南丹市国際交流会館

(住所) 〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町 62-1

### <実施内容>

南丹市国際交流会館にて、なんとにあんキッズカーニバルが開催され、国際交流や国際協力に関心のある子どもや家族連れが約 150 名来場した。

弊会は、NGO 相談員コーナーを設置し、国際協力や世界情勢に関する相談を受け付けた。参加者は子どもや家族連れだけでなく、国際交流協会関係者や市職員など多岐にわたった。

### <集客人数または相談対応件数>

集客人数：約 150 名、相談対応件数：10 名 12 件

### <所感及び効果等>

今回は対象が子どもや家族連れだったので、寄せられる相談に対応するだけでなく、子ども向けに国際協力に関するクイズを実施するなど、参加者が気軽にブースを利用できるよう努めた。国際協力や国際交流に関心のある 10 代~60 代の幅広い参加者が、NGO 相談員コーナーを利用した。具体的には「アフリカの人々はどんな生活をしているのか」「ミャンマーの子どもたちについて教えてほしい」「南スーダンの内戦について教えてほしい」など、様々な質問が寄せられた。

国際交流を目的としたイベントだったので、国際協力イベントとは参加者層や相談内容が大きく異なった。キャリア相談は 0 件で、質問のほとんどが世界情勢や特定の国の文化に関するものだった。

主催者である南丹市国際交流協会からは、「これまで国際協力に関連するブースは設けられなかったが、今回ブース出展をしてくれたことで参加者に新しい刺激を与えられたのではないか」との前向きなコメントを頂いた。今後もイベント等で協働していきたい。

<活動風景 (写真記録) >



相談対応にあたる福島



相談員ブース。子ども向けに世界に関するクイズなども実施した



会場の様子

2017 年 12 月 10 日

## 外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

福島 美樹

### <概要>

企 画 名 : あすの Kyoto・地域創生フェスタにおける NGO 相談員ブース出展

イベント種類 : 相談対応サービス

実施日時 : 平成 29 年 11 月 23 日 (木・祝) 10:00~16:00

出張者氏名 : 福島 美樹

主催団体名 : 主催等団体名 / きょうと地域創生府民会議

依頼元 / 公益財団法人 京都府国際センター

場 所 : 京都府立植物園

(住所) 〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町

### <実施内容>

京都府立植物園にて、あすの Kyoto・地域創生フェスタが開催され、相談員ブースを設けた「クイズで知ろう多文化共生と国際協力」と題したブースには約 800 名が来場した。

弊会は、NGO 相談員コーナーを設置し、国際協力や世界情勢に関する相談を受け付けた。参加者は子どもや家族連れ、学生が多く、日本の NGO が行う国際協力やアジアやアフリカの国々の実情を知り、楽しみながら国際協力や多文化共生について学んでいた。

### <集客人数または相談対応件数>

集客人数 : 約 800 名、相談対応件数 : 20 名 20 件

### <所感及び効果等>

今回は主な対象が子どもや家族連れだったので、寄せられる相談に対応するだけでなく、国際協力に関するクイズを実施して、参加者が気軽にブースを利用できるよう努めた。また、子どもにもわかりやすいように平易な言葉を使うよう心掛けた。

参加者は国際協力に関心のある人ばかりではなかったため、相談というよりも日本の国際協力や世界の現状に関して、こちらから説明して質問に答える対応を行った。当会が実施したケニア農村開発支援やシリア難民支援を例に挙げながら、貧困や紛争がすぐそばにある子どもたちの現状を説明すると驚いた様子で「知らなかったです。」という声も聞かれた。

今回のように幅広い参加者が訪れるイベントは、相談員制度を広く周知し、国際協力に参加する人を増やす良い機会だと思う。今後も積極的に参加していきたい。

<活動風景 (写真記録) >



来場した一般男性に相談員受託団体を紹介する福島



会場の様子

平成 29年11月13日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「関西学院大学教育学部にて国際協力とアジア農村の現状と課題についての講演」※出張形態:講演
2. 出張者:坂西 卓郎((公財)PHD協会職員)
3. 実施日:2017年11月10日(金)15:10~16:40
4. 場所:関西学院大学教育学部(西宮市岡田山 7-54)
5. 対象者 :関西学院大学教育学部 1年生 67名

6. 実施報告:

関西学院大学教育学部1年生を対象に国際理解、国際交流、国際協力の実践事例研究の枠で、将来教育、保育士を志す学生にとって、幅広い視野と保育・教育者として「支援や開発といったことにどのようにアプローチできるのか、具体的な個人の生き方やあり方、思考していることに触れてほしい」という要望を受け NGO 相談員として講義を行った。

講演内容としては国際協力概論として、開発の歴史を振り返り、慈善型開発、技術移転型開発、参加型開発の流れを概説した。またその流れの中で住民主体の必要性を述べ、その具体例として国際開発プロジェクトの失敗例などを取り上げ説明を行った。また当会研修生の想いや帰国後の活動のビジョンなどについても具体例の一つとして語ってもらった。その後、テーマを途上国におけるジェンダーへ話を移し、アジアの状況、世界の状況を俯瞰した。特にネパールの状況を報告し、対比として世界における男女平等度ランキングを用いたが、当会の研修生及び、近隣の国で言えば中国91位、インドネシア92位、インド108位、ネパール110位という中で日本は101位という位置であり、学生たちも「日本が低くて驚いた」というコメントをしてくれた。今回の要望であった「具体的な個人の生き方や在り方」に少しは触れることができたのかと思う。特に授業中の真剣な眼差しは近年では珍しいものであり嬉しかった。

また終了後には「保育が国際協力に役立つんですね」と話しかけてくれる生徒もおり、NGO 相談員として国際協力への関心を持ってもらうことに少しは寄与できたと感じた。

## 7. 添付画像: 当日の様子を3枚添付

①② NGO 相談員制度及び外務省と NGO の連携について説明している様子



③ アジアの研修生と対話型で農村の現状や課題について語っているところ

平成 29年11月20日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

### 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「第17回NGOスタディツアー合同説明会」※出張形態:ブース出展
2. 出張者:坂西 卓郎 (公益財団法人 PHD協会)  
谷川 詩織 (特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会)
3. 実施日:平成29年11月18日(土) 13時30分~17時00分
4. 場所:龍谷大学 大阪梅田キャンパス  
(〒530-0001 大阪市北区梅田 2-2-2)
5. 対象者 :一般、学生55名、NGO関係者24名、総計79名

#### 6. 実施報告:

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター、株式会社マイチケット、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会が主催するNGO合同(7団体)によるスタディツアー説明会にNGO相談員ブースを出展し、関西 NGO 協議会、PHD協会の2団体で相談対応を行った。プログラムはスタディツアーに関するミニセミナー、各ブースでの個別相談、プレゼント抽選会であった。

関西を中心とした7団体が集まったことで、スタディツアーに興味がある人たち以外にもNGOや国際協力に興味を持つ学生などが集まった。相談としては就職関連の相談が多く、谷川が8人25件、坂西が9人24件、総数17人49件の相談に答えた。詳細は各団体の報告に記載させていただくが、NGOへの就職相談が多く、具体的には国内事務職員が必要とされるスキルなど、就職に関する準備や対応の相談が多かった。

全体的な所感としては、スタディツアーよりも就職に興味を持っている学生も多く、毎回NGO相談員ブースを出展している成果が表れたように感じた。実際、相談者が途切れることなく、終了時間になっても数人が並んでいる状況であった。今年度のNGO出展団体は7団体と昨年度よりも少なかったが、これは主催者側が企画旅行の条件を満たしている団体のみに出展許可を出したためであり、その分集客は去年の数字よりも下回ったが、NGOのスタディツアーにおける安全管理に実績がある団体が集まったと言え、中長期的に見てNGOの信頼獲得には良い影響があると思われる。今後はこれを機にNGO内でより安全管理の意識が高まることを期待したい。

8. 添付画像:別紙に当日の様子を4枚添付

①第17回NGOスタディツアー合同説明会全体の様子



②17回NGOスタディツアー合同説明会での  
相談員ブースの様子



③17回NGOスタディツアー合同説明会での  
相談員ブースの様子



平成 29 年 11 月 24 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「こうべ小学校にて国際協力とアジアの生活と文化についての講演」  
※出張形態:講演

2. 出張者:前田 千春((公財)PHD協会職員)

3. 実施日:2017年11月23日(木)  
1部…9:45～10:45、2部…11:00～12:00

4. 場所:神戸市立こうべ小学校  
(神戸市中央区中山手通4丁目23-2)

5. 対象者 :こうべ小学校児童 1部…35名、2部…35名、計70名

6. 実施報告:

こうべ小学校が毎年開催している行事『こうべふれあいフェスティバル』は、子どもたちに大きな夢や希望を持ち、豊かな国際性を身につけてほしいという願いを込めて、外国出身の地域の人々を講師として招き、体験学習の場を提供するイベントである。体験学習の提供を NGO 相談員の出張サービスを通して依頼を受けたため、PHD 協会のアジアからの研修生とともに国際協力とアジアの生活と文化についての講演を実施した。こうべふれあいフェスティバルは2部制で、1部・2部それぞれ35人ずつ、計70人の子どもたちがミャンマー・ネパール・インドネシアの体験学習を選択し、参加してくれた。

進め方としては PHD 協会職員の前田が、当会の研修生たちに質問を投げかけ、彼女たちからミャンマー・ネパール・インドネシアの生活や文化についての話を引き出す形をとった。まず、ミャンマー式じゃんけんの紹介と実践、ミャンマー・ネパール文字の紹介、インドネシアの小学校に関するクイズを実施するなど、子どもたちが参加しながら学べるように努めた。そして、それぞれの国の村や町の課題について講演し、これらの課題に対し日本人が行っている国際協力について説明した。その際には村の小学校の課題、町の児童労働問題、村に病院がないことなど、小学生たちが身近に感じてもらえやすい内容に重点をおいて話した。その結果、参加した小学生から「インドネシアの小学校で教科書が足りないのはなぜですか。」、「ミャンマーで働いている子どもたちは学校に行きたいと思っていますか。」などの質問を受けたことから、国際社会や国際協力について関心を深めてもらうことができたと考えている。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を2枚添付



① NGO 相談員の制度について説明している様子



②ミャンマー式じゃんけんを紹介し、子どもたちと実践している様子

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：愛媛県立西条高等学校「国際関係研究」における国際理解授業  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：竹内 よし子（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 11 月 6 日（月）15 時 40 分～17 時 30 分
4. 場所：愛媛県立西条高等学校（愛媛県西条市明屋敷 234 番地）
5. 参加者数：高校 2 年生約 15 名
6. 実施報告：国際政治や国際経済について学ぶ「国際関係研究」の教科において、ODA、ESD、SDGs 等の最新情報を紹介し、具体例としてモザンビークの現状や課題、NGO 活動を紹介した。また、放課後には ESS 国際理解部の生徒からの国際協力、NGO 活動等に関する相談対応や交流を行った。受講生全員に本制度のチラシを配布することで、制度の PR も行った。

### [主な対応内容]

① **相談内容** モザンビークの子どもたちは学校に通うことができるのか？  
**対応** 都市部には小学校から大学まで十分な教育を受けることができるが、村では十分に教育を受けることができないなど、都市部と農村部によって差があることを伝えた。

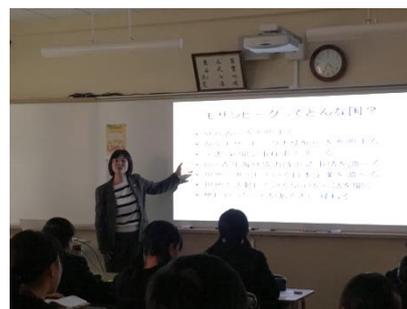
② **相談内容** NGO の仕事について知りたい。  
**対応** 四国の国際協力 NGO の情報を紹介するとともに、ボランティアやインターンシップとしての関わり方についても情報提供した。

7. 所感および効果：受講生が少人数であったため、一人一人の質問等に丁寧に対応することができた。また、世界規模の課題や SDGs について情報提供するとともに、国際協力活動の意義について考える機会とすることで、国際交流・国際協力の担い手育成につなげることができたと考える。

### 8. 別添（写真）



授業の様子①



授業の様子②

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：松山市立生石小学校における国際理解授業  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 11 月 15 日（水）13 時 20 分～14 時 50 分
4. 場所：松山市立生石小学校（愛媛県松山市高岡町 630 番地の 3）
5. 参加者数：小学校 6 年生 143 名
6. 実施報告：「世界の暮らしと私たちの暮らし～私たちにできること～」をテーマに、国際理解の授業を行った。本小学校では、以前よりネパールについて学んでいる学校であるため、前半はネパール、モザンビークの国旗、場所、衣食住などの文化、楽器など基本情報について写真等を活用して紹介した。後半には、具体的な国際協力活動の事例として、モザンビークにおける NGO 活動、環境課題、教育格差等について紹介し、児童からの質疑応答に対応した。

### [主な対応内容]

- ① 

相談内容
対 応

 なぜ同じ国なのに、モザンビーク国内で格差があるのか？  
国内格差はモザンビークだけでなく、発展途上国の現状として多くあることを説明した。また、都市部や観光地のみで開発が進み、農村部で仕事が無くなってしまふこともひとつの原因であることを紹介した。
- ② 

相談内容
対 応

 誰かのために活動している人がいることを知って、世界はあたたかいと感じた。自分にもできる国際協力について知りたい。  
これまでに他の小学校で行ってきた活動内容を紹介するとともに、何かしてあげるだけの関係ではなく、交流を通して世界で友達・仲間をつくることも国際協力につながると回答した。

7. 所感および効果：本小学校における国際理解授業は、今回初めて実施した。クイズ形式で国の概要を紹介したり、写真や動画を取り入れることで、児童の関心を高めることができ、質問や感想など活発な発言があった。さらに後日、ネパール JICA 帰国研修員同窓会の会長と同学校を訪問し、ネパールと日本で同じこと、違うことについて具体的な内容を紹介・交流することで本授業のフォローアップを行った。なお、現在、松山市教育委員長との面談を調整中であり、本出張サービス含む国際理解教育のカリキュラム作りや NGO との連携について提案する予定としている。

## 8. 別添（写真）



国の基本情報を紹介



モザンビークのカプラナ布を体験

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：アミカス記念祭 2017
2. 実施者：原田君子、浅香勇貴
3. 日時：平成 29 年 11 月 4 日(土) 10 時 00 分～19 時 00 分  
11 月 5 日(日) 10 時 00 分～17 時 00 分
4. 場所：福岡市男女共同参画推進センター・アミカス  
(福岡市南区高宮 3 丁目 3-1)

### 5. 実施報告

本イベントは、開催場所であるアミカスの開館日である昭和 63 年 11 月 2 日を記念し、「アミカス記念祭」として開催されるものである。講演会や映画の上映、コンサートのほか、市民グループによる展示・バザー・ミニセミナー、アクセサリーや布小物などのハンドメイド雑貨販売、本格スリランカカレーや、焼き菓子、コーヒーの販売も実施されていた。

FUNN ブースでは国際協力に関心のある人たちからの質問や相談に対して情報提供やアドバイスをを行った。「NGO とは何ですか?」、「国際協力とはどんなことをするのですか?」という質問が多数投げかけられたため、一般市民にもわかりやすいように説明した。

また、フェアトレードをきっかけとして国際協力に関心を持ってもらうため、パネル形式のクイズを用意した。一杯のコーヒー330 円のうち豆の生産者の取り分はどれぐらいかを質問し答えてもらう形式のもので、コーヒーのフェアトレードについて考えてもらうきっかけとした。これは反応がよかった。実際にフェアトレード商品を準備するとよりよくなるため、次回につなげていきたい。

### 6. 写真添付



(会場の様子)



(相談の様子)

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：あすばる男女共同参画フォーラム 2017
2. 実施者：原田君子 (特活)NGO 福岡ネットワーク)
3. 日時：平成 29 年 11 月 25 日 (土) 10 時 00 分～16 時 30 分  
11 月 26 日 (日) 10 時 00 分～16 時 00 分
4. 場所：クローバープラザ 1F (福岡県春日市原町 3 丁目 1-7)

### 5. 実施報告：

本イベントは、毎年行われている事業ですが、今年は特に「あすばる開館 20 周年」を記念した「あすばる男女共同参画フォーラム」として開催されました。「男性の生き方・暮らし方・働き方を見直そう」をテーマとし、講演会、県民企画や市民グループによる展示・バザー・ミニセミナー、そして地元の新鮮な野菜などの農産物の販売も行われました。県内外からバス貸切りで訪れていた来場者もいました。イベントに毎年県内外からバスを借り切って訪れて来ますがみなさんの男女共同参画についての意識の高さを改めて知る事ができました。

当団体 FUNN は昨年度に引き続きフォーラムで展示と NGO 相談を行いました。FUNN の活動についての説明を行いました。NGO 相談員のチラシ配布をしながら NGO 相談員制度についての説明も行いました。来場者へは足を止めてもらうよう呼びかけを行いながら国際協力についての説明や質問相談等の対応を行いました。

来場者への対応だけでなく、ブース出展団体との名刺交換、交流をおこない、今回新たな出会いができました。大学生の出展団体とそのゼミの教授との出会いから今後 FUNN と新たな繋がりができた事は大きな収穫にもなりました。

### 6. 写真添付



(相談受付の様子)



(ブースの様子)

## NGO相談員による出張サービス実施報告書

### 特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

1. 企画名：おきなわ国際協力・交流フェスティバル 2017
2. 出張者氏名：普久原サオリ、大仲るみ子
3. 主催等団体名：独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄国際センター
4. 実施予定日時：平成 29 年 11 月 18 日（土） 10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所：JICA 沖縄国際センター  
住所：沖縄県浦添市字前田 1143-1
6. 参加者：約 5000 名
7. 実施報告

#### 【概要】

毎年開催されている国際協力・交流フェスティバルは、県内の国際協力・交流団体や自治体、NGO がブース出展し、県民に国際協力・交流への理解と地域の輪を広げるイベントであり、当センターも出展参加し、世界の多様性、地域の国際化、地域でできる国際協力の紹介や世界のウチナーンチュをテーマにした参加型ワークショップを実施した。またブースにて、NGO 相談員制度のポスターの掲示やちらしの配布、制度についての説明を行い、地域住民への周知を図った。

#### 【所感】

親子連れや学生、そして県内の NGO・NPO 団体や JICA 研修員がブースに訪れ、当センターの活動はもとより、NGO 相談員事業での出張サービス・出前授業対応について伝えることができた。授業の一環でフェスティバルを訪れた国際協力を学ぶ学生からは、当センターと地域との関わりについての質問、海外でのボランティア活動やスタディーツアーに参加したい希望、その情報収集の仕方についての相談を受けた。このようなイベントでブース出展参加することで相談員制度の広報や相談員活動が広がられた。

#### 8. 写真



## NGO相談員による出張サービス報告書

1. 企画名： ブース参加～NGO 相談員って何だろう？～  
沖縄移民・世界のウチナンチュを伝える人になろう講座内
2. 出張者氏名：上原真紀、大仲るみ子
3. 主催等団体名：沖縄県
4. 実施予定日時：平成 29 年 11 月 25 日（土） 10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所：名桜大学総合研究所 研修会議室  
沖縄県名護市字為又 1220-1
6. 参加者：40 名
7. 実施報告：

### 【概要】

沖縄移民をテーマにした参加型ワークショップ、指導者養成講座実施会場内にブースを設け、NGO 相談員制度について、当センターの存在について知ってもらった。教育関係者や地域での人材育成、また開発教育に関心の高い方々に相談員制度を知ってもらい、今後の制度の活用につなげたいと考え実施した。

### 【所感】

参加者期待数よりも少ない参加者数であったが、開発教育や地域の人材育成に関心のある方々へ当センターの活動や NGO 相談員制度について知ってもらう機会となった。ワークショップをメインとし、合間の時間や終了後に地域での活動や開発教育教材に関する質問を受け、回答行った。特に参加型教材についての関心が高く、当センターが実施している開発教育講座や参加型教材について、また開発教育協会について紹介した。参加者の中には、教育分野に携わっている方がおり、教育現場で参加型ワークショップをより広めたい、地域の人材育成としてボランティア活動につなげたいという声もあり、今後連携をつくことを考えたい。

## 8. 写真

